イベントを通じた中心市街地の活性化 - 秋田市を例に -

秋田大学 学生員 ○吉田 佑子
 秋田大学大学院 学生員 中山 弘治
 秋田大学 正会員 木村 一裕

1. はじめに

現在、全国各地で中心市街地の衰退が問題となっているが、その一方で多くの地域では中心市街地の活性化に向けて様々な取り組みが行なわれている。

中心市街地の活性化には拠点施設や、道路、公共交通等ハード的な整備が不可欠であるが、これと合わせて、様々なイベントの開催により常に非日常的な演出が必要である。本研究では、多くの活性化策の中でもイベント等のソフトな取り組みに着目し調査することで、秋田市を例にイベントを通じた中心市街地活性化の有効性について明らかにする。

秋田市中心部でのイベント状況を把握するために実際にイベントにボランティアや実行委員として参加するとともに、中心部でイベントを行なっている組織にインタビュー調査をした。また、他地域で実施しているイベントについても調査・分析することでイベントを行っていく上での重要点を把握し、秋田市と他地域とのイベント状況について比較するためのキーワードとして用いた。

2. 全国並びに秋田市のイベント事例

秋田市のような地方部を中心に、活性化策として

イベントを有効的に活用している地域について調べた。表1に事例調査から分かった重要点、各地の取り組みについて示す。表1の(1)地域資源の有効活用とは、地域の資源を活かすことでイベントに独自性が生まれ、地域住民にとっても親しみがわきやすいという特長がある。八代市では商店主たちが自ら劇団を結成しており、上演した演目の「八福神」はこの商店街の新たな資源となっている。

秋田市の中心部で行なわれている主なイベントの概要を表2に示す。表より開催時期の特徴として夏季が半数を占め、冬期は少ないこと、全体を見た場合は、半数以上が昨年度及び今年度にスタートした新しいもので、活性化策としてイベント意識が高まっていることが分かる。次に内容に特徴があるヤートセ祭と招福狐の行列について説明する。ヤートセ祭は、平成18年度地域づくり総務大臣表彰を受賞しており、秋田民謡をアレンジした音楽にのせ参加団体独自の振り付けと衣装で踊るというものである。招福狐の行列は、地域にある稲荷神社の伝説をもとに狐のメイクをした子供たちがまちをパレードするというもので、地域密着型の取り組みである。

表1 事例調査分かった重要点

キーワード	特長	事例紹介
(1)地域資源の有効活用	・有り触れたイベント ・地域資源の活用でオリジナル性の創出	・劇団「やっちゃん笑店街」...まちの新たな目玉として 商店主が 劇団を結成 。劇団から生まれた「 八福神 」は商店街の資源の一つ。(熊本県八代市)
(2)非日常性	・いつもとは違うまちの雰囲気演出 ・新たなまちの楽しみ方の発見	・ナイトバザール... 夜に開催 することで日中のまちとは違った雰囲気を味わうことができる。(山形県鶴岡市、埼玉県秩父市)
(3)交流の場	・地元小・中学生の体験学習の場 ・大学生のチャレンジショップ開催の場 ・学生にまちをアピールできる機会と新たなつながりの創出(波及効果)	・ひろめ市場...市場内にあるイベントスペースで 地元小学生 が作ったお米を販売。(高知県高知市) ・きらきらチャリティ大パーティ& 仮装大会 ...約5,000人が参加する 市民忘年会 。(長崎県佐世保市)
(4)多彩なイベント	・季節にあわせて実施 ・季節ごとのまちの顔をアピール ・定期的に開催 ・まちの活動内容が市民に浸透しやすい	・紺屋町商店街... 子供を対象に季節に合わせて様々なイベント を行っており、年間のイベント開催数は7回である。(島根県浜田市)
(5)テーマ	・テーマがあることで活動内容に筋道が生まれ、まちの活動内容が外部に伝わりやすく、オリジナル性にもつながる。	・玉野みなと芸術フェスタ...「 現代アート 」というテーマのもと活動。(岡山県玉野市) ・紺屋町商店街... 子供を対象 (島根県浜田市) ・天神町商店街... 高齢者 に優しいまち(島根県松江市)
(6)手作り	・手作り ・コストダウン、アイデアの創出	・ ガラクタ市 ...ポスター作りや運営は運営者たちの手作り。(新潟県柏崎市)
(7)満足度	・主催者も参加者も一緒に楽しむことで、一体感が生まれる。	・きらきらチャリティ大パーティ& 仮装大会 (長崎県佐世保市)
(8)相乗効果	・イベントと並行して利用できる施設の存在により楽しむことができる。	・天神市... 高齢者をターゲット にした縁日で、高齢者が 気軽に休憩できる施設 がある。(島根県松江市)
(9)市民組織の存在	・市民組織 ・商業主だけでなく市民も当事者意識を持ち活動することが大切。	・ほっと茅ヶ崎準備室...この組織は 商店主と市民との架け橋 として活動。商業者と消費者が同じ問題認識のもと協働で活動している。(神奈川県茅ヶ崎市)

表2 秋田市中心部で実施されているイベント

開催時期	イベント名称	主体	実施年
春	千秋公園桜まつり・つつじまつり	行政	
	ヤートセ秋田祭	実行委員会	H10年
夏	大町まつり	商業者	H6年
	川反外町ほろ酔いドリンクラリー	商業者	H12年
	ふるさと秋田・駅前カーニバル	商業者	H2年
秋	秋田竿燈まつり(仲小路モール化)	行政・商業者	
	AKITAカジュアルアーツフェスタ	行政・商業者	H18年
	The Power of Music from AKITA	実行委員会	H17年
	仲小路Jazz Festival	実行委員会	H19年
	招福狐の行列	商業者	H14年
	ハロウィンウィークインなかこおーじ	商業者	H16年
	農水高校フードフェスティバル	その他	H19年
冬	AKITAリースフェスティバル	商業者	H18年
	秋田ほっとHOTクリスマスフェスタ	実行委員会	H19年
定期	通の市	商業者	H10年
	あきた青空市	行政・商業者	H19年
	わらしべ貯金箱	実行委員会	H19年

3. 運営主体の意識調査と傾向の把握

秋田市中心部でイベントを行なっている各組織の特徴を把握するためインタビュー調査を行った。インタビュー概要については表3に、インタビュー調査から分かった各組織の活動意識と傾向については表4に示す。

表3 インタビュー対象者とイベント番号

組織形態	組織名
行政	秋田県()
	秋田市()
商業者	秋田市駅前・広小路商店街振興組合()
	仲小路振興会()
	秋田市通町商店街振興組合()
	秋田市大町商店街振興組合()
実行委員会	仲小路JAZZフェスティバル実行委員会()
	ハロウィンパレード実行委員会()
	秋田ほっとHOTクリスマスフェスタ実行委員会()

表4 各組織の活動意識と傾向

組織形態	活動意識と傾向
実行委員会	目的意識のレベルが高く、学生や若者が積極的に参加している傾向。
行政	行政の単独ではなく民間と連携して実施している傾向。
商業者	一部が積極的に取り組んでおり、全体で見れば、目的意識低く消極的な傾向。しかし仲小路振興会ではイベント開催を通じ徐々に全体に動きが広まり、積極的に参加する人が出始めている。

表5にはインタビューから得られた各組織の考えを、表1で示したキーワードと新たな取組みという点からまとめたものを示す。この表から、各面での課題が浮彫りになった。

- (1)地域資源の有効活用：全体的に見た場合弱い部分があり、資源の見直しとともに強化が必要である。
- (2)非日常性：来客者はいつもとは違うまちの雰囲気を楽しんでいるものの、新たなまちの発見(波及効果)までにはつながっておらず、まち全体で楽しんでもらう工夫が必要である。

(5)テーマ：今後イベントを強化させていく上で、より明確にして行っていくことが必要である。

(例として、表1の(5)で示した紺屋町商店街では、子どもを対象にすることで普段あまりまちに来ない若い母親の来街を促している。)

(8)相乗効果：近隣の施設と連携して活動していくことが必要である。

(例として、表1の(8)で示した松江市では、施設の利用をかねてイベントに足を運んでいる人が多い。)

表5 キーワードに関するインタビュー結果とその評価

キーワード	特長・課題	評価
(1)地域資源の有効活用	あきた青空市...市民市場が会場であるにも関わらず、市場らしい取り組みに欠ける。招福狐の行列...地元神社にある伝説をもとに実施、オリジナル性あり。	○
(2)非日常性	クリスマスフェスタ...昼夜開催、イルミネーションが好評で、多くの人に夜のまちの雰囲気を楽しんでもらった。	○
(3)交流の場	仲小路振興会...大学生や高校生との交流があるが小・中学生の交流なし。今後、交流を強化していく予定。通町商店街...一部で交流あり。	
(4)多彩なイベント	仲小路振興会...春季開催のイベントがないため今後行なう予定。その他の商店街...イベントを強化したいが予算とスタッフの面で難しい。	×
(5)テーマ	実行委員会...イベントの目的意識が明確。仲小路...新たなテーマでの取り組み思案。	○
(6)手作り	スタッフが少なく、手作りで協力して行なうのは困難。	×
(7)満足度	満足度もあるが課題の方が大きい。	
(8)相乗効果	地域にある施設との連携ほぼなし。	×
(9)市民組織の存在	仲小路...活動を通じ担い手が育つ。実行委員会...積極的に活動に参加。	○
(10)新たな取組み	組織体制がある程度整っているところは新たな取組みを考案または予定。しかし、商店街新しいことをしたくても予算・スタッフの面で消極的。	

評価 ○：良好 ×：強化必要 ×：課題

また、全体的な課題として「人手不足」があり、活動強化の妨げになっている。しかし仲小路振興会ではワークショップなどの交流を通し、外部とのつながりが生まれ、イベント時に多くの方がサポーターとして関わっている。このように、地域や市民と積極的に交流していくことで、ある程度「人手不足」が解消できるのではないかと考えられる。

4. おわりに

活性化策としてのイベントはまちづくりを行っていく上でのきっかけであり、そこからどのような効果を生み出し、つなげていくかが重要である。秋田市においては、イベントを運営する組織を強化し、各組織間で連携して取り組んでいくことで、活性化策としてのイベントは有効だと考えられる。